

コスメティックサイエンス学環 学位授与の方針

【学位授与の方針】

コスメティックサイエンス学環では、学生に自律的に学ぶ姿勢、原理・原則を理解する力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、構想力、モデル化能力、課題解決・遂行能力を身に付けさせ、社会の変革に柔軟に適応できる幅広い教養と生命科学の基礎力を土台として、学際的視点からコスメティックサイエンスに関連した広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を養成する。

佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則の定める卒業の認定の要件を満たしたものには、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位を授与する。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 自然、文化、社会に関する基礎的な知識を身に付けている。
- (2) 日本語による高いコミュニケーション能力と英語による専門知識の修得及び発信する能力を身に付け、適切にプレゼンテーションする能力を身に付けている。
- (3) コスメティックサイエンス分野及びこれに関連する分野において必要な知識を収集し、分析及び考察する能力を身に付けている。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 現代社会における諸問題をコスメティックサイエンス及びこれに関連する分野の立場から考察することができる。
- (2) コスメティックサイエンス及びこれに関連する分野において、知識や技法を応用し、課題解決に取り組むことができる。
- (3) コスメティックサイエンス及びこれに関連する分野における課題解決のため、他者と協調・協働して取り組むことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 自然環境、文化や伝統、多様な価値観を理解し、自主的・自律的に学習を続けることができる。
- (2) 専門的知識・能力を持ち、倫理観を備えた職業人として地域や社会の健全な発展に寄与する力を身に付けている。

コスメティックサイエンス学環 教育課程編成・実施の方針

【教育課程編成・実施の方針】

学位授与の方針を具現化するため、以下の方針の下に教育課程を編成、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

学位授与の方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成・実施する。

(1) 基礎的な知識と技能

- ① 教養教育において、市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する「基本教養科目」を選択必修として配置する。
- ② 教養教育において、市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目（「外国語科目」、「情報リテラシー科目」）を必修として配置する。
- ③ 専門教育において、必要な知識を収集し、分析及び考察する能力を身に付けさせるための授業科目として、「コア科目」を必修として配置する。

(2) 課題発見・解決能力

- ① 教養教育において、様々な課題を発見・探求する力、協調性と指導力、倫理観・社会的責任感を身につけさせる科目、「大学入門科目」、「インターフェース科目」を選択必修として配置する。
- ② 専門教育において、課題解決能力を身に付けさせるため、プロジェクト型演習の「コスメティックサイエンスPBL」を必修として配置する。
- ③ 専門教育において、コスメティックサイエンス及びこれに関連する分野における様々な課題を発見・探求する力、様々な課題に対して情報技術等を用いて考察及び解決する力を身に付けさせるための専門教育科目を必修または選択として配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

- ① 教養教育において、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力、及び高い倫理観と社会的責任感を身に付けさせる授業科目「インターフェース科目」を、選択必修として配置する。
- ② 専門教育において、地域の課題や社会の問題を自己のものとしてとらえ、考え、発信する力を身に付けさせるため、学環周辺科目「企業インターンシップS・L」を配置する。
- ③ 専門教育において、高い倫理観と社会的責任感を身に付けさせるため、「科学技術者倫理」、「知的財産概論」を必修として配置する。
- ④ 社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を養うために「卒業研究」を必修として配置する。

2. 教育の実施体制

- (1) 各授業科目は、その内容に適合した教育能力を有する教員を配置して実施する。
- (2) 教育課程の編成・実施に関する課題分析及びその改善については、授業担当教員により構

成される教員会議において審議・決定し、これを実施する。

- (3) 全ての学生に指導教員（チューター）を配置し、ラーニング・ポートフォリオを活用して履修指導や学修支援を行う。
- (4) 全ての授業科目でシラバスを明示し、各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学生に周知する。
- (5) 各学期末には学生による授業評価アンケートを実施し、これをもとに不断の授業改善を行う。
- (6) 授業科目間の関連や科目内容の難易度を表現するコースナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。
- (7) 卒業研究（必修）を4年間の学修成果を示すものとして位置付け、ルーブリックを活用した総括的評価を実施する。

3. 教育・指導の方法

- (1) 各授業科目は、シラバスに明示された講義概要、授業計画に従って実施する。
- (2) 2、3年の各学期に実験を配置し、講義、演習と実験を組み合わせることで学修効果を高める。
- (3) 各授業科目で課題を与え、それをシラバスに明記し、授業時間外の学生の自己学修を促す。
- (4) 実験科目ではグループもしくは個人単位での少人数教育を行い、ティーチングアシスタントを有効に活用して実践的な知識と技術を修得させる。
- (5) カリキュラムに基づき、教員会議が教育分野ごとの講義実施と学期毎の実施・評価状況報告を行う。この報告内容と各種アンケートの集計結果について、教育FD委員会が点検・分析を行う。教育改善委員会は、教育FD委員会による点検・分析結果に基づき、教育改善の実施と指導を行う。

4. 学修成果の評価

- (1) 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、測定する到達目標の特性に応じて、筆記試験、レポート（論文）、作品、発表、活動内容等により評価を行う。
- (2) 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。
- (3) 成績の評語（評価）は、100点を満点とした評点又は評価基準に基づき判定するものとし、評点及び評価基準は、次の表に掲げるとおりとする。

評語（評価）	評点	評価基準	合否判定	成績評定（GP）
秀	90点以上	学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を上げている。	合格	4
優	80点以上 90点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70点以上 80点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60点以上 70点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可

- を不合格とする。
- (4) 教育課程を通じた学修成果を、ラーニング・ポートフォリオ、学士力項目の達成状況（ルーブリック評価等）及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。
 - (5) 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

佐賀大学学士力と科目との対応：

学士力（大項目）	学士力（小項目）	授業科目
1. 基礎的な知識と技能	(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能	基本教養科目
	(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能	外国語科目 情報リテラシー科目
	(3) 専門分野の基礎的な知識と技能	コア科目 専門教育科目 卒業研究
2. 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目 インターフェース科目 コア科目 専門教育科目 卒業研究
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	コア科目 専門教育科目 卒業研究
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目 インターフェース科目 コスメティックサイエンスPBL 専門教育科目 卒業研究
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
	(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力	インターフェース科目 企業インターンシップS、L 卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目 科学技術者倫理 知的財産概論 卒業研究